



## 2020年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年5月14日

上場会社名 株式会社セルシード 上場取引所 東  
 コード番号 7776 URL http://www.cellseed.com  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 橋本 せつ子  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 最高財務責任者 (氏名) 小野寺 純 TEL 03-6380-7490  
 四半期報告書提出予定日 2020年5月15日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年12月期第1四半期の連結業績（2020年1月1日～2020年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第1四半期	31	△73.5	△182	—	△182	—	△182	—
2019年12月期第1四半期	117	5.9	△154	—	△154	—	△152	—

(注) 包括利益 2020年12月期第1四半期 △188百万円 (—%) 2019年12月期第1四半期 △155百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第1四半期	△13.69	—
2019年12月期第1四半期	△13.30	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年12月期第1四半期	1,460	1,344	90.9	99.01
2019年12月期	1,456	1,345	91.1	102.24

(参考) 自己資本 2020年12月期第1四半期 1,327百万円 2019年12月期 1,327百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年12月期	—	—	—	—	—
2020年12月期 (予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2020年12月期の連結業績予想（2020年1月1日～2020年12月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 (累計)	84	△48.3	△570	—	△570	—	△570	—	△42.86
通期	310	12.4	△1,020	—	△1,020	—	△1,020	—	△76.70

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年12月期 1 Q	13,408,219株	2019年12月期	12,981,819株
② 期末自己株式数	2020年12月期 1 Q	154株	2019年12月期	154株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年12月期 1 Q	13,298,917株	2019年12月期 1 Q	11,459,265株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7
(重要な後発事象)	8
3. その他	9
継続企業の前提に関する重要事象等	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、年明けからの新型コロナウイルス感染拡大が世界的な脅威となっており、東京五輪・パラリンピックの延期、緊急事態宣言の発令など、極めて不透明な状況が続いており急速な悪化傾向が見られます。

当社グループを取り巻く再生医療分野におきましては、山中伸弥教授によるヒトiPS細胞の発明以降、再生医療への応用など実用的な研究開発が数多く行われるようになり、将来における再生医療分野への期待度はますます高まっております。

以上のような環境の下、当社グループは再生医療支援事業及び細胞シート再生医療事業における活動を推進いたしました。その結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は31,253千円(前年同四半期比86,674千円の減少)、営業損失は182,413千円(前年同四半期比27,633千円の増加)、経常損失は182,640千円(前年同四半期比28,354千円の増加)、親会社株主に帰属する四半期純損失は182,074千円(前年同四半期比29,678千円の増加)となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

## ① 再生医療支援事業

再生医療支援事業では、販売面におきまして器材製品の拡販に向けた既存代理店との更なる協業強化及び積極的な販売促進活動をした結果、カタログ掲載製品について国内代理店及び海外への売上が前年から引き続き予算対比大幅にアップし、過去最高の売上を達成することが出来ました。また、当社細胞培養センターを活かした再生医療を支援する再生医療受託事業については、共同研究先である東海大学より先進医療にかかる1例目の自己軟骨細胞シートの製造を受託し、第2四半期連結会計期間以降の売上実現へ向け製造の準備を開始しました。

以上のような活動の結果、売上高は29,451千円(前年同四半期比11,523千円の増加)、営業損失は3,741千円(前年同四半期比12,485千円の減少)となりました。

## ② 細胞シート再生医療事業

細胞シート再生医療事業では、食道再生上皮シート及び軟骨再生シートの細胞シート再生医療等製品パイプラインの自社開発を中心とした研究開発を推進しております。

食道再生シートパイプラインでは、引き続き追加治験に向け、対象患者のプロトコール、必要な症例数についてPMDAと協議中であり、少しずつではあるが前進しております。なお製造販売承認の時期についてはPMDAとの協議が終わり次第お知らせいたします。

また、海外展開におきましては、当社と台湾の三顧股份有限公司(MetaTech(AP)Inc.)が中心となり出資した台湾での合弁会社が2020年の1月に設立され、今後、食道、軟骨以外のパイプライン事業の開発、製造、販売を実施する予定です。

以上のような活動の結果、売上高は1,802千円(前年同四半期比98,197千円の減少)、営業損失は101,555千円(前年同四半期比50,931千円の増加)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第1四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末に比べて6,028千円増加し、1,251,514千円となりました。これは、売掛金が42,884千円減少した一方で、現金及び預金が99,957千円増加したことなどによります。

当第1四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末に比べて1,899千円減少し、208,856千円となりました。これは、有形固定資産が1,592千円減少したことなどによります。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて4,128千円増加し、1,460,370千円となりました。

## (負債)

当第1四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末に比べて5,169千円増加し、115,617千円となりました。これは、未払法人税等が5,678千円、買掛金が5,648千円減少した一方で、未払金が18,545千円、賞与引当金が10,566千円増加したことなどによります。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べて5,169千円増加し、115,617千円となりました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べて1,041千円減少し、1,344,753千円となりました。これは、新株予約権の行使による株式の発行により資本金が94,533千円、資本剰余金が94,533千円増加した一方で、親会社株主に帰属する四半期純損失を182,074千円計上し、為替換算調整勘定が6,404千円減少したことなどによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、今後、新型コロナウイルスの感染拡大による当社グループ業績への影響が想定されますが、現時点においてその影響額を合理的に算定するの非常に困難であります。従って2020年2月14日に発表しました連結業績予想を据え置いております。

今後、業績修正が必要となった場合には速やかに開示いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,065,072	1,165,030
売掛金	56,562	13,678
商品及び製品	16,489	11,856
仕掛品	1,537	3,694
原材料及び貯蔵品	30,164	28,408
前払費用	19,093	15,073
その他	56,566	13,773
流動資産合計	1,245,486	1,251,514
固定資産		
有形固定資産	29,113	27,520
無形固定資産	552	656
投資その他の資産	181,089	180,678
固定資産合計	210,755	208,856
資産合計	1,456,242	1,460,370
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	9,313	3,664
未払金	33,733	52,278
未払法人税等	10,574	4,895
賞与引当金	4,244	14,810
前受金	30,114	30,169
その他	22,467	9,798
流動負債合計	110,447	115,617
負債合計	110,447	115,617
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,872,335	3,966,868
資本剰余金	1,094,132	1,188,665
利益剰余金	△3,617,630	△3,799,705
自己株式	△227	△227
株主資本合計	1,348,609	1,355,601
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	—	△321
為替換算調整勘定	△21,340	△27,745
その他の包括利益累計額合計	△21,340	△28,066
新株予約権	18,525	17,218
純資産合計	1,345,795	1,344,753
負債純資産合計	1,456,242	1,460,370

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年3月31日)
売上高	117,928	31,253
売上原価	10,013	10,021
売上総利益	107,914	21,232
販売費及び一般管理費		
研究開発費	140,194	97,478
その他	122,499	106,167
販売費及び一般管理費合計	262,694	203,645
営業損失(△)	△154,779	△182,413
営業外収益		
受取利息	5	5
為替差益	176	232
受取手数料	130	204
還付加算金	175	25
その他	5	16
営業外収益合計	493	484
営業外費用		
新株発行費	—	711
営業外費用合計	—	711
経常損失(△)	△154,286	△182,640
特別利益		
新株予約権戻入益	—	868
特別利益合計	—	868
税金等調整前四半期純損失(△)	△154,286	△181,772
法人税、住民税及び事業税	△1,890	302
法人税等合計	△1,890	302
四半期純損失(△)	△152,395	△182,074
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△152,395	△182,074

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年3月31日)
四半期純損失(△)	△152,395	△182,074
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	△321
為替換算調整勘定	△2,975	△6,404
その他の包括利益合計	△2,975	△6,726
四半期包括利益	△155,371	△188,800
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△155,371	△188,800
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—



## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、新株予約権の行使に伴う新株の発行により、当第1四半期連結累計期間において資本金及び資本剰余金がそれぞれ94,533千円増加し、当第1四半期連結会計期間末において資本金が3,966,868千円、資本剰余金が1,188,665千円となっております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第1四半期連結累計期間（自 2019年1月1日 至 2019年3月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	再生医療支援 事業	細胞シート 再生医療事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	17,928	100,000	117,928	—	117,928
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	17,928	100,000	117,928	—	117,928
セグメント損失 (△)	△16,226	△50,623	△66,850	△87,929	△154,779

(注) 1 セグメント損失の調整額△87,929千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に親会社本社の管理部門に係る費用であります。

2 セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第1四半期連結累計期間（自 2020年1月1日 至 2020年3月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	再生医療支援 事業	細胞シート 再生医療事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	29,451	1,802	31,253	—	31,253
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	29,451	1,802	31,253	—	31,253
セグメント損失 (△)	△3,741	△101,555	△105,297	△77,115	△182,413

(注) 1 セグメント損失の調整額△77,115千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に親会社本社の管理部門に係る費用であります。

2 セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(第18回新株予約権の権利行使)

当社が2019年9月2日に発行した第18回新株予約権につき、2020年4月1日から2020年5月8日までの間に、以下のとおり行使されました。

(1) 新株予約権行使の概要

- ① 新株予約権の名称  
株式会社セルシード第18回新株予約権
- ② 行使価格  
1株当たり337～353円
- ③ 行使新株予約権個数  
1,795個
- ④ 行使者  
バークレイズ・バンク・ピーエルシー (Barclays Bank PLC)
- ⑤ 交付株式数  
179,500株
- ⑥ 行使価額総額  
60,825千円

(2) 当該新株予約権行使による発行済株式数及び資本金

- ① 増加する発行済株式数  
179,500株
- ② 増加する資本金の額  
30,505千円

### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、当社新株予約権の行使による資金調達の実施等により、前連結会計年度末の手元資金(現金及び預金)残高は1,065,072千円となり、財務基盤については安定的に推移しております。一方で事業面におきましては細胞シート再生医療事業の重要課題である細胞シート再生医療第1号製品の早期事業化の道程を示すまでには至っておりません。以上のことから、当社グループは当第1四半期連結会計期間において、引き続き継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在していると判断しております。

当社グループは当該状況の解消を図るべく、引き続き以下の施策に取り組んでおります。

#### 当社細胞シート再生医療第1号製品の早期事業化の実現と事業提携の推進による収益機会の獲得

当社グループは、今後、食道再生上皮シート並びに軟骨再生シートの開発を推進し、当社細胞シート再生医療第1号製品の早期事業化を実現すること、また事業提携先の開拓を通じて、更なる収益機会を獲得していくことで当該状況の解消を図って参ります。